

30 年度第 4 回そだつ部会議事録

日 時	2018 年 10 月 11 日 (木) 10 : 00～
場 所	地域連携交流施設 1 階 地域活動室
テーマ	1、本日参加メンバー 2、事務局より 3、協議 4、次回開催日の調整
内容	<p>1. 参加メンバー：7 名</p> <p>2. 事務局より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かけはし CAFÉ について 参加者 12 名 (初参加保護者 4 名、先輩保護者 3 名、当事者 1 名、東はりま教諭 2 名、事務局 2 名) ・(はたらく部会)はたらく現場見学会について 11 月 9 日(金)ハリマ化成株式会社 <p>3. 協議</p> <p>○発達障害の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第二回全体研修会内容について 第二回全体研修会では、当初合理的配慮について、具体的な場面を設定して劇を行う研修を行う予定であったが、前提として合理的配慮を行う上で重要になってくる「障害」の捉え方についての啓発を行ってから具体的な内容に入った方が良いのではないかという話が出たため、桜美林大学講師の谷内氏を招いて『障害平等研修(DET)』を行うこととなった。 <p>○かけはしの内容のブラッシュアップについて検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所 サービスはわかっても、家のことがわからない=家での生活のことはかけはしで ・大人用のかけはし →措置ではなく、自ら契約していかなければならない ・支援者側から聞きたい事に関して充実 ・短期でなく長期、人生設計 ・生育歴についてはこのままでいいが、現状について伝えるところが弱い所もあるのではないか ・チェックリストをつくることは煩雑になるという意見が昔出たことがある。 ・アセスメントを親が書くと客観的にならない、できない可能性がある。 →外でのことは第三者、専門家に任せて、家の中のことを親に書いてもらえばいいのではないか ・「放デイでもらったものをはさみましよう」そのた診断書や等記録を残すページ、ポケット ・インデックス…項目 ・かけはしは困っているから使うべきで、～しないといけない になってはいけない。 →かけはしについて事前説明をさらに充実させる。本人に選択権を持たせる。 ・相談支援事業所のアセスメントシートを集めて、重なっているところを採用する。

- ・福祉サービスを受けていない人には説明しながら
 - 書き方教室
 - ・就学前の母、まだ発達障害を認めたくない。
 - かけはし CAFÉ に来るような人はそもそも書く気がある
 - ・相談しない人は籠ってしまって出てこない
 - ・部会の中でもそれぞれの活動を理解しきっていない→見える化の必要性
 - ・保育園の小学校への引継ぎ 詳細な記録→引継ぎがある 頼めば貰える
- いつ書いたかがわかるようにしたい
- ・書き足し方式を採用してはどうか。同じことを何度も書くのは大変だし、量ばかり増えて読むのも大変になってしまう。
 - ・読むボリュームを減らして分かりやすくする方法
- 学校の調査票のように、様式を用意する
- ・最初は黒で次は青で、など色を変えると分かりやすい
 - ・行ごとに記入日を入れる
- 資料をまとめる なくさないように
- ・その時の記録を無理のないように綴じていくようなスタンスで
 - ・大人になったときに何を書くか…親が心配なところ 伝えたいところ…
 - ・小さい子の一日のスケジュールページ
- かけはしの位置づけについて
- ・元々かけはしはサポートブックではなくプロフィールブック
- こういう風にお手伝いしてくださいとは書かない。
- 昔はそうだったが、今後はどうするのか
- 変えるならコンセンサスを取る必要がある
- プロフィールブック 自己紹介 説明
- サポートブック こういう風に助けて下さい
- ・かけはしはプロフィールブックのままにして、サポートブック(サポートシート?)を別でつくる?
- まとめ・今後の動き**
- ・他の事業所のアセスメントシートを集める
 - ・他市町のサポートブック
 - ・今日の意見をもとに事務局の方で少し形にしつつ、提示する
- 4. 次回開催日の調整**
- 12 月 4 日(火)10:00~地域連携交流施設 1 階